

埋蔵文化財課年報 〈18〉

平成25年度



公益財団法人松江市スポーツ振興財団

表紙写真：松江城下町遺跡（南田町134-1外）西区検出の礎石建物跡。松平期（1638～1871年）
の松平藩家老「大橋茂右衛門」の与力（家臣）の屋敷跡。

目 次

第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織	1
第2章 平成25年度事業の概要	3
臼畑遺跡	5
二部遺跡	6
大庭原ノ前遺跡	7
松江城下町遺跡（南田町101-21外）	8
松江城下町遺跡（南田町127-17外、127-14外、130-3外）	9
松江城下町遺跡（南田町134-1外）西区	10
松江城下町遺跡（南田町132外）その1	11
松江城下町遺跡（工事立会）	13
第3章 平成24年度以前の調査	14

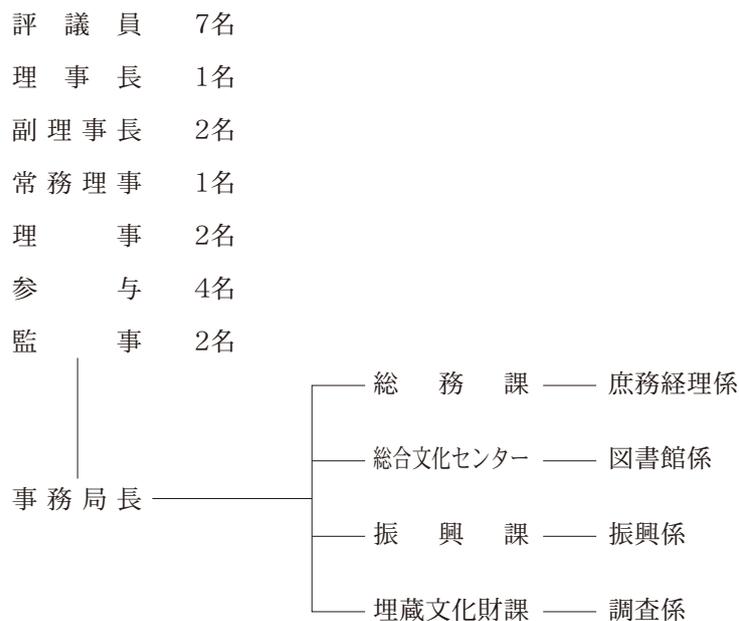


松江市位置図

第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和51年（1976年）4月1日
財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。
- ◇ 沿 革 平成25年（2013年）4月1日
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。
- ◇ 所在地 松江市学園南1丁目21番1号
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業
 - (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。
 - (2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
 - (3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動の推進に関する事業。
 - (4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
 - (5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
 - (6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

◇ 組 織（平成26年4月1日現在）



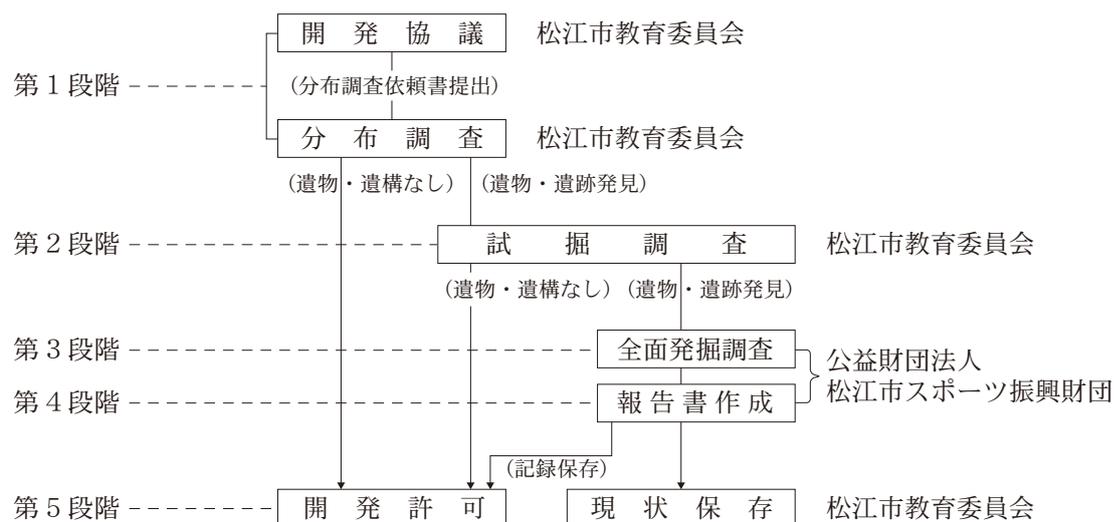
◇ 埋蔵文化財課

- ・設 立 平成5年7月1日
- ・所在地 〒690-0401 島根県松江市島根町加賀1263-1
- ・TEL 0852-85-9210
- ・FAX 0852-85-3611
- ・業 務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2) 埋蔵文化財課の庶務経理（予算及び決算を含む）に関すること。

◇ 平成25年度 職員体制（平成26年3月31日現在）

理 事 長	福島律子（5月31日まで）	清水伸夫（6月1日から）
常 務 理 事	松浦克司	
事 務 局 長	原 成美	
埋蔵文化財課長	三島秀幸	
調 査 係 長	古藤博昭	
主 任	江川幸子	落合昭久
嘱 託 職 員（調 査 員）	小山泰生	園山 薫 徳永桃代 廣濱貴子
嘱 託 職 員（調査補助員）	宇津直樹	門脇祐介 北島和子 黒田裕司 秦 愛子
	原 英誉	渡邊真二
嘱 託 職 員（事 務）	後藤哲男	江角由巳

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第2章 平成25年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ振興財団埋蔵文化財課では、平成25年度において7班体制をとり、7遺跡の発掘調査と、工事立会調査、発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

市道古浦西長江線道路整備事業に伴う**臼畑遺跡**発掘調査では、近世の土坑墓が23基確認された。墓坑内からは人骨と共に、銭貨、土師器の皿、陶磁器、キセル、握り鉢などの副葬品が出土した。市道古志大野線道路改良事業に伴う**二部遺跡**発掘調査では、縄文時代の中期前葉から晩期の土器が出土した。松江市宇竜谷土地区画整理事業に伴う**大庭原ノ前遺跡**発掘調査では、掘立柱建物跡、土坑、溝などの遺構の他、多数の柱穴を検出した。掘立柱建物跡は奈良時代のものが2棟、平安時代のものが2棟、室町～江戸時代のものが4棟作られていることが分かった。

城山北公園線都市計画街路事業用地内で確認された松江城下町遺跡の4遺跡について本調査を実施した。**松江城下町遺跡（南田町101-21外）**では瓦の廃棄土坑や、池跡の可能性のある石列などを検出した。調査区の西側では、造成土として多量の川砂が使用されていることが分かった。まとめて確認された量としては前例が無いものである。**松江城下町遺跡（南田町127-17外、127-14外、130-3外）**では、堀尾期^註の掘立柱建物跡、素掘りの溝、松平期の掘立柱建物跡、杭列、幕末期の廃棄土坑を検出した。**松江城下町遺跡（南田町134-1外）**は、H25年度は東西に二分した調査区の西区を調査した。その結果、松平期の礎石建物跡を伴う屋敷跡を良好な状態で検出することができた。この他、地下に埋納された鉄の玉や、曲物容器が出土した。**松江城下町遺跡（南田町132外）**は、H25年度は3分割した調査区の1区と2区（上3面）の調査を行った。その結果、松平期の掘立柱建物跡、土坑、堀尾期から京極期の竹籠土坑、堀尾期の掘立柱建物跡などを検出した。

2. 工事立会調査

城山北公園線都市計画街路事業用地内の松江城下町遺跡が確認された箇所、全面調査が行えない場所については、工事立会調査を行った。

3. 報告書作成

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果の一部について報告書作成を行った。松江市宇竜谷土地区画整理事業に伴う柳堀遺跡、大庭原ノ前遺跡の発掘調査成果について報告書作成を行った。史跡出雲国分寺跡発掘調査の報告書作成作業を行った。

註 松江藩主の時期区分

堀尾期：堀尾吉晴^{よしはる}が松江城築城・城下町建設を開始したとされる1607年から断絶する1633年までの期間。

京極期：堀尾氏の後、京極忠高^{ただたか}が藩主となった期間。1634～1637年の3年間。

松平期：京極氏の後、松平直政^{なおまさ}が1638年に松江藩主となり1871年まで続いた。



1. 白畑遺跡
2. 二部遺跡
3. 大庭原ノ前遺跡
4. 松江城下町遺跡
(南田町101-21外)
5. 松江城下町遺跡
(南田町127-17外、127-14外、
130-3外)
6. 松江城下町遺跡
(南田町134-1外)
7. 松江城下町遺跡
(南田町132外)
8. 松江城下町遺跡
(工事立会)



平成25年度 調査位置図

うす はた い せき 白 畑 遺 跡

1. 所在地 松江市鹿島町古浦大字白畑319、風呂谷321、
321-1、321-2、321-3、322-1
2. 調査面積 72.0㎡
3. 調査期間 平成25年7月16日～9月25日
4. 調査原因 市道古浦西長江線道路整備事業
5. 遺跡の種別 散布地・近世墓
6. 遺跡の年代 縄文時代から近世
7. 調査の概要



調査地位置図

本遺跡は、鹿島町古浦に所在する。古浦は、日本海に面して東西900m、南北600mの砂丘が存在し、調査区は砂丘の南縁部、標高約22～23mの丘陵西側斜面に位置する。

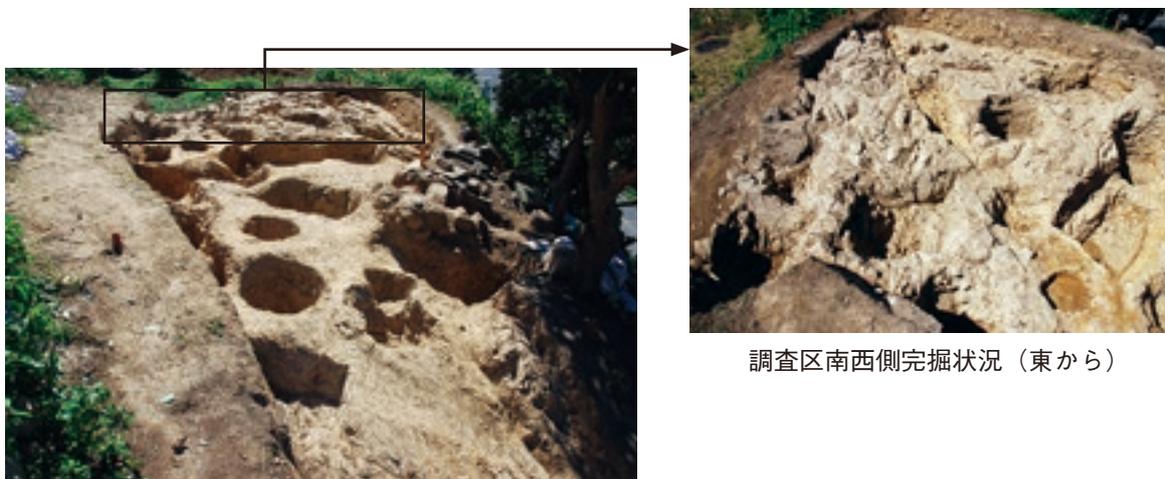
試掘調査により縄文土器、弥生土器、土師器、古銭などが出土し、本調査において23基の土坑墓を確認した。墓坑は全て地山面から検出され、円形、隅丸長方形を呈していた。

墓坑内から土師器の皿、陶磁器、銭貨、金属製品、漆椀、人骨が出土している。陶磁器は紅皿、紅猪口、碗の破片など九陶編年Ⅳ期（1690～1780年）のものであり、銭貨は寛永通宝が大半を占め、他に北宋銭や明銭が数枚みられた。金属製品にはキセル、鉄釘、握り鋏などがあり、これらの出土遺物から近世墓と考えられた。

調査地及び周辺には墓標や五輪塔が散在しており、周辺住民の方々の言い伝えによると、本調査区は昔、古浦の海禅寺（本調査区から北東へ500m）の墓地であったそうである。海禅寺の開創年月は不明であるが、開創時は現在の古浦天満宮の横にあり、明和7（1770）年現在の場所に移転している。古浦天満宮は本調査地の北東約50mにあり、憶測ではあるが寺の移転と同時に墓地も移転したのではないかと推測された。

松江市の北側で近世の埋葬に関わる遺跡は少ない。今回の調査において、近世集落における土坑墓の在り方、副葬品について貴重な成果が得られたことは有意義であり、良好な資料を得ることができた。

（廣濱貴子）



完掘状況（北東から）

調査区南西側完掘状況（東から）

に ぶ い せき 二 部 遺 跡

1. 所在地 松江市古曾志町352番2外
2. 調査面積 188.5㎡ (西側90.4㎡・東側98.1㎡)
3. 調査期間 平成25年4月19日～6月14日
4. 調査原因 市道古志大野線道路改良事業
5. 遺跡の種別 散布地
6. 遺跡の年代 縄文時代から古墳時代
7. 調査の概要

本遺跡は、北山山系朝日山から南東方向に派生する丘陵の先端部、谷部から平野部にてたようなところに所在する。市道古志大野線の南側道路沿いに位置し、北西から南東方向に細長い調査区である。調査は便宜上東西2区に別けて行った。

西側調査区では西側から東側に向かってレンズ状に凹む地山面を検出した。この地山面は調査区北側が谷であったと考えられることから、北側から南側に続く谷底の一部と考えられた。堆積土から縄文時代中期前葉から晩期の土器や石製品が多く出土している。縄文時代の遺跡が少ない当地域において縄文土器が多く出土したことは注目すべき点である。他に土坑2基を検出している。

東側調査区では土坑2基、溝2本を検出し、埋土から縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。

出土遺物には他に須恵器があり、縄文時代中期から古墳時代中期頃まで本調査区北側の丘陵端部及びその周辺に生活の場があったと推察された。本調査地は南側の宍道湖と北側に連なる北山山系の中間地点のような所に位置しており、生活に適した場所であったと考えられることから、人々の生活が連綿と続いていたと推測される。

調査において、縄文土器を確認し、周辺に縄文時代の遺跡の存在を示唆できたことは有意義であり、調査地周辺における縄文時代以降の様相を考察するうえで貴重な資料となった。

(廣濱貴子)



調査地位置図



調査区西側完掘状況 (北東から)



調査区東側完掘状況 (北西から)

おおばはらのまえいせき
大庭原ノ前遺跡

1. 所在地 松江市大庭町字原ノ前124番地
2. 調査面積 440m²
3. 調査期間 平成25年4月15日～6月28日
4. 調査原因 土地区画整理事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 奈良時代～近世
7. 調査の概要

調査地は、東の茶臼山と西の単独丘陵に挟まれる通称、長者原と呼ばれる谷地形の東側に位置する。国指定史跡の山代郷正倉跡から北西へ120mほど行った国道432号線の西側の緩斜面にあたり、調査前は畑地となっていた。

調査では、掘立柱建物跡8棟、土坑3基、溝2条、段状遺構1基、柱穴183基を検出した。

掘立柱建物跡は、緩斜面を切って造られた広い加工段上に奈良時代で2棟、平安時代で2棟、室町～江戸時代で4棟が作られていた。このうち、奈良時代（SB04・05）と平安時代の建物跡（SB01・02）は母屋と思われるもので、建て替えが行われたことが分かった。また、室町～江戸時代の建物跡は母屋（SB03）と、これに付属する小屋（SB06・07・08）であったと思われる、こちらでは小屋の建て替えの痕跡を見つけることができた。その他、遺構面を覆う遺物包含層からは古墳時代の須恵器の高坏、飛鳥～平安時代までの土師器の坏・皿、須恵器の坏・皿・坏蓋・壺・甕、室町時代の中国白磁の皿、江戸時代の肥前陶磁器・在地陶磁器など多時期に渡る遺物が出土した。

本遺跡の奈良時代の建物跡は、山代郷正倉跡の正倉域に近接する場所に位置することから、正倉に何らかの関わりがある建物であった可能性も考えられる。

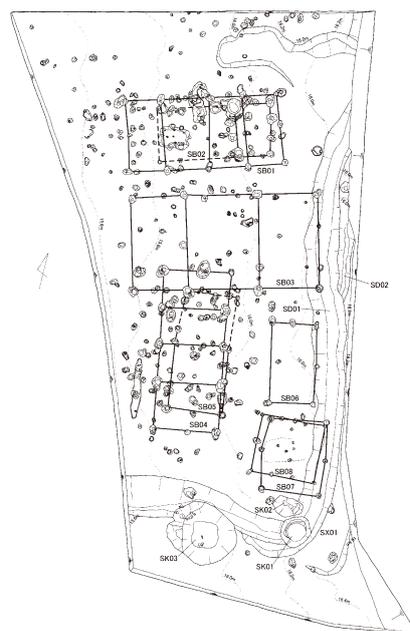
（落合昭久）



調査地位置図



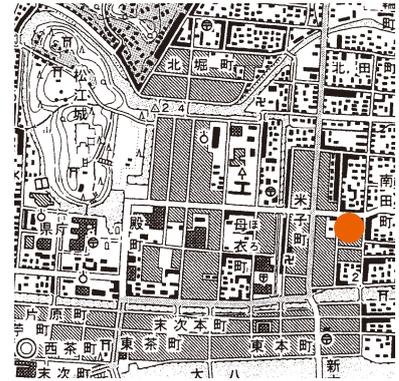
調査区全景（北西から）



調査区全景（1：400）

まつ え じょう か まち い せ き み な み た ま ち ほ か
松江 城 下 町 遺 跡 (南 田 町 101-21 外)

1. 所在地 松江市南田町101-21、101-22
2. 調査面積 67.5㎡
3. 調査期間 平成25年6月27日～9月30日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種類 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

本調査地は松江城の東方約800mに位置する。

江戸時代の古絵図によると江戸時代の初期（絵図年代1620～1633年）の堀尾期には藤川弥八郎の屋敷に比定され、江戸時代前期（絵図年代1634～1637年）の京極期には成田助九郎、江戸時代中期（絵図年代1754～1747年）の松平期には皆川図書、江戸時代後期（絵図年代1825～1851年）の松平期には高木の屋敷地に比定される。堀尾期から松平期を通じて屋敷地の正面は西側にあり、調査地は表門を入れて左手の屋敷地の北～北西部にあたる場所である。

調査の結果、4面の遺構面を確認した。いずれの面でも屋敷建物にあたる遺構は確認できなかった。

第1面は攪乱層を除去して検出した任意の遺構面である。この面では性格不明の石列、瓦の廃棄土坑を検出した。第2面では陶磁器、瓦などが入る廃棄土坑と、池跡の可能性のある石列を伴う遺構を検出した。第3面では、脆い川砂の層を掘り込んだ性格不明の土坑を2基検出した。第4面では、自然堆積層（第1層）が攪拌されており、また、上面が畝状に波打つ形状が認められたことから畝として利用された可能性があることが分かった。

今回検出した遺構で特筆すべきものは、造成土として入れられた多量の川砂である。まとめて確認された量としては前例の無いものである。この砂は調査区の近辺には存在せず、他所から運び込まれたものであることが分かった。

(古藤博昭)



池跡の可能性のある石列（南から）



完掘状況（調査区西側を南東から）

まつ えじょう かまち いせき みなみ たまち ほか ほか ほか
松江城下町遺跡（南田町127-17外、127-14外、130-3外）

1. 所在地 松江市南田町127-17、127-7、127-14、127-15、130-3、130-10
2. 調査面積 532.5㎡
3. 調査期間 平成25年4月1日～9月20日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種類 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

調査地は、松江城本丸から東に約920m離れた場所に位置する。作業上の都合により、調査区を1-1区（127-17外）、1-2区（127-17外、127-14外）、2-1区（127-14外）、2-2区（130-3外）と分けて調査を行ったが、各遺跡名で概要を述べていくことにする。

<南田町127-17外> 堀尾期－「種村弥太夫」（150石）、京極期－人名なし、松平期－「松山長左衛門」の屋敷地にあたる。近代以降のかく乱が激しく、堀尾期の造成土に掘立柱建物跡と屋敷地西端に南北方向の素掘りの溝が残るのみであった。

<南田町127-14外> 南田町127-17外と同様で、堀尾期－「種村弥太夫」（150石）、京極期－人名なし、松平期－「松山長左衛門」の屋敷地にあたる。堀尾期に造成された遺構面と松平期まで使用された遺構面を確認している。堀尾期の遺構面は、大海崎石を礎板石にもつ掘立柱建物跡を検出し、松平期の遺構面では、幕末期の廃棄土坑や松平初期の杭列を検出している。

<南田町130-3外> 堀尾期・京極期－空白地、松平期－大橋茂右衛門与力「永野市郎右衛門」、「石田」の屋敷地にあたる。堀尾期に造成された遺構面と松平期まで使用された遺構面を確認している。堀尾期の遺構面では、礎板石をもつ掘立柱建物跡を検出している。松平期の遺構面では、廃棄土坑と礎板石を持たない簡素な掘立柱建物跡を検出している。

（徳永桃代）



127-17外の遺構完掘状況（北東から）



廃棄土坑（127-14外）検出状況



130-3外の遺構完掘状況（南西から）

まつ え じょう か まち い せ き み な み た ま ち ほ か に し く
松江 城 下 町 遺 跡 (南 田 町 134-1 外) 西 区

1. 所在地 松江市南田町134-1外
2. 調査面積 480.23㎡ (西区：262.08㎡)
3. 調査期間 平成25年11月1日～平成26年3月31日 (西区)
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種類 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

調査地は、松江城本丸から東に約970m離れた場所に位置する。調査の都合により、調査区を西区と東区に分け、今年度は西区の調査を行った。

江戸時代の松江城下町絵図や文献資料から調査地が、松平期（1638～1871年）を通して松江藩家老「大橋茂右衛門」の与力（家臣）であった「大橋伊左衛門」の屋敷地にあたる事が分かっている。

堀尾期（1607～1633年）、京極期（1634～1637年）の城下町絵図では、地割を示す線はあるものの土地の管理者を表すような人名の記載はない。

調査では6面の遺構面を確認した。下層の遺構面では、いくつかの土坑が細い溝でつながる遺構群を検出した。これらは、堀尾期、京極期にあたる畠に伴う水溜と推測される。上層の遺構面では、松平期の礎石建物を伴う与力屋敷跡を良好な形で検出することができた。ここでは、屋敷が火災に遭うごとに建て替えられた様子が見てとれた。また、屋敷の下に埋納された鉄の玉あるいは曲物容器が出土するなど、当時の様子を知ることができる多くの情報を得ることができた。

(徳永桃代)



松平期の与力屋敷跡



埋納された鉄の玉



埋納された曲物容器 (赤外線撮影)

まつえじょう かまち いせき みなみ たまち ほか
 松江城下町遺跡（南田町132外）その1

- 1. 所在地 松江市南田町132、133
- 2. 調査面積 1区236.1㎡、2区169.7㎡
- 3. 調査期間 平成25年11月19日～平成26年3月31日
- 4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
- 5. 遺跡の種類 城下町遺跡
- 6. 遺跡の年代 近世
- 7. 調査の概要



調査地位置図

本遺跡は、松江城から東に約1km、城山北公園線の南側に位置する。本調査地は、江戸時代の城下町絵図によれば、堀尾・京極期には屋敷地の区割りはされているものの人名などの記載はなく、松平期の絵図で初めて屋敷割と主名が記載されている。当時の家老「大橋茂右衛門」の与力の屋敷地であり、江戸時代中期の絵図では、「山部」、「西澤」氏の、江戸時代後期の絵図では「鈴木」「荒木」氏の主名がみえる。

調査は便宜上調査区を西から1区、2区、3区に分けて行い、本年度は1区3面と2区3面の調査を行った。1区は地表面下1.2mまで攪乱されていた。遺構面は旧地表面に近い堀尾期（17世紀初頭）の面を第1遺構面とし、現地表面に向かって第2、第3・・・とし、各区の遺構面については下表に記載する。

		1 区		2 区	
		遺 構	遺 物	遺 構	遺 物
第6遺構面	幕末～近代	攪 乱		石列	陶磁器、土師器、木製品
第5遺構面				礎石建物、トイレ遺構	陶磁器、土師器木製品
第4遺構面	松平期			礎石建物	陶磁器、土師器他
第3遺構面		掘立柱建物、土坑	陶磁器、土師器、木製品、	未調査	
第2遺構面	堀尾～京極期	竹籠土坑、土坑	肥前陶器、磁器（中国産）、土師器		
第1遺構面	堀尾期	掘立柱建物、土坑	肥前陶器、土師器		
旧地表面	城下町造成以前		中国白磁（15世紀代後半）、土師器		

調査は全調査区の約半分が終了したところである。旧地表面から出土した中国磁器は今まで南田町の発掘調査において確認されていない成果であり注目される。今後の調査において与力屋敷の新たな成果が得られることを期待したい。
 (廣濱貴子)



第1遺構面（南東から）



第2遺構面（南東から）



第2遺構面、竹籠土坑（南から）



第3遺構面（南東から）

1 区



第4遺構面（南東から）



第5遺構面、トイレ遺構<埋桶>（西から）



第6遺構面、石列（北から）



第5遺構面、トイレ遺構<埋甕>（西から）

2 区

まつえじょうかまちいせき こうじりっかい
松江 城下町遺跡 (工事立会)

1. 所在地 松江市殿町、母衣町、南田町
2. 調査面積
3. 調査期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

前年度に引き続き、道路整備に伴う電線共同溝などの工事に立ち会い、18箇所調査を行った。その結果、石組水路、石列、土坑などの遺構を検出した。

城山北公園線西側の松江鹿島美保関線との交差点北西側では南北方向の石組を検出した。この石組は現在の道路側溝の西側に沿って、面を東に向ける形で並べられていた。石組に使用されているの石の大きさは径が30cm程度のものから70～80cmのものがあり、これらが2～3段に組まれていた。最下段の石は旧地表面の自然堆積層第1層（I層）上に置かれていた。元々は東の道路側にも石組があり水路が形成されていたはずであるが、この道路側の石組は消失していた。（MJR353、361～363）※

石組の面から約1m西（屋敷側）に入ったところから西には旧地表面のI層の堆積が見られなかった。（MJR361）このことは、城下町の形成時に旧地表面から掘り込んで作られた「素掘りの大溝」が存在していることを示している。MJR361では南北方向に存在する大溝の東肩部を捉えたものと思われる。

※「MJR…」は立会調査の地点番号
(古藤博昭)



MJR361 石組水路（南から）



自然堆積層（I層）の途切れ（南から）

第3章 平成24年度以前の調査

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H5	釜代1号古墳ほか	西浜佐陀町	粘土柳を伴う長大な割竹型木棺検出。水銀朱・鏡・玉類出土。	1994刊
H5	菅沢谷横穴群	乃白町	横穴墓12基を検出。	1994刊
H5	向遺跡	国屋町	奈良～平安期の集落跡検出。	1994刊
H5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の報告書作成) 古墳時代後期円墳と横穴墓群の調査成果。	1994刊
H5	柴尾遺跡	上東川津町	前期古墳と、縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡を確認。	1994刊
H5	角森遺跡	八幡町	弥生後期～古墳時代にかけての遺物包含地。	1994刊
H5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳を検出。後世の祭祀関連遺物が出土。	1994刊
H5	出雲国分寺跡	竹矢町	僧房の西方を調査。瓦溜り検出。	1995刊
H5	深田遺跡	大庭町	奈良～平安期の道路状遺構と円形土坑列を検出。	
H5	岩汐峠遺跡ほか	大井町	礫石経塚を検出。	1999刊
H5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	1999刊
H5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H6	柴尾遺跡ほか	上東川津町	縄文時代の石器生産遺跡と前期古墳を調査。	1995刊
H6	敷居谷古墳群	東生馬町	後期初頭の方墳。主体部から太刀等が出土。	1995刊
H6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は発見されなかった。	1999刊
H6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の掘立柱建物群検出。	1999刊
H6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995刊
H6	筆ノ尾横穴群	東長江町	横穴墓5基を検出。	1995刊
H6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から古代瓦、陶製鴟尾等が出土。	1995刊
H6	黒田畦遺跡	大庭町	奈良時代の土坑内から墨書土器・製塩土器・律令様式の土器が出土。	1995刊
H6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地。	1995刊
H6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で未盗掘の石棺式石室発見。	1996刊
H7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。羨道から前庭にかけて馬具、玉等が出土。	1998刊
H7	遅倉横穴群	朝酌町	横穴墓5基を検出。	1999刊
H7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999刊
H7	宮尾古墳群ほか	西川津・ 上東川津町	石器のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基が出土。	1996刊
H7	袋尻遺跡群	乃白(現平成)町	竪穴住居跡7棟、土壙5基、後期古墳2基、近世墓2基等を検出。	1998刊
H7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996刊
H7	大久保遺跡	乃白町	焼土壙、ピットを検出。	1996刊
H7	川原後谷横穴群	川原町	横穴墓の墓道のみ調査。	1996刊
H7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996刊
H8	小無田II遺跡	山代町	山代郷南新造院の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。	1997刊
H8	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期の集落跡を検出。	1999刊
H8	柴III遺跡	西川津町	弥生終末期の玉造工房跡含む竪穴式住居跡3棟等を検出。	1997刊
H8	袋尻遺跡群	平成町	古墳6基、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土壙3基、横穴墓3穴を検出。	1998刊
H8	松江北東部遺跡	上本庄町	竪穴住居跡と掘立柱建物跡を検出。子持勾玉が出土。	1999刊
H9	大佐遺跡群	西持田町	古墳時代初頭の墳丘墓と、戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999刊
H9	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と埋葬施設8基を検出。	1999刊
H9	柴尾遺跡	西尾町	遺構、遺物は検出されなかった。	1999刊
H9	松江北東部遺跡	上本庄町	中世の掘立柱建物跡2棟、井戸状遺構1基を検出。有舌尖頭器出土。	1999刊
H9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。銅剣形石剣などが出土。	2005刊
H10	夫手遺跡	手角町	約6000年前の漆液容器、木製の櫛が出土。	2000刊
H11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡11棟を検出。	2000刊
H11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壙、ピット、杭列などを検出。	2000刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H11	大坪遺跡	山代町・大草町	「恐々謹解・・・」と記された木簡が出土。	2001刊
H10 ～ H11	田和山遺跡群	乃白町	三重の環壕検出。濠の外側に竪穴住居跡、掘立柱建物跡を多数検出。	2005刊
H12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出(内1基は現状保存)。小型仿製鏡が出土した。	2000刊
H12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	掘立柱建物跡と自然河道を検出。	2001刊
H12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。	2001刊
H12	大坪遺跡	山代町・大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を確認。木製品出土。	2002刊
H12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002刊
H12	舎人遺跡	国屋町・黒田町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002刊
H13	奥山古墳群	上乃木町	古墳時代中期頃の古墳6基を調査。鉄剣や鉄鎌等が出土。	2002刊
H13	大坪遺跡	山代町・大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の土器と木製品が出土。	2002刊
H13	荒隈城跡(小十太郎地区)	国屋町	近世以降の古墳群を検出。幕末～近世の土器出土。	2002刊
H13	法吉遺跡	法吉町	土壌や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器、木製品が出土。	2002刊
H13	山津窯跡	大井町	土坑、溝、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006刊
H13	田和山遺跡	乃白町	建物跡、土壌、小石棺、自然流水路などを検出。	2005刊
H14	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生中期～奈良時代の竪穴住居跡や墓壇、水溜遺構等を検出。	2004刊
H14	犬丸遺跡	上大野町	溝2条・土坑3基を検出。	年報Ⅶ
H14	渋ヶ谷遺跡(措松地区)	上乃木町	道路状遺構や溝状遺構、上幅6～7mの断面V字～逆台形の大溝を検出。	2005刊
H14	田和山遺跡群	乃白町	掘立柱建物、小石棺を検出。	2005刊
H14	法吉遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～10世紀の土器片と木製品が出土。	2004刊
H14	山津遺跡	大井町	6世紀後半と8世紀前半の須恵器窯跡等を検出。鴟尾・陶棺が出土。	2006刊
H14	薦沢砦跡	法吉町	城郭遺構は検出されなかった。	2005刊
H15	菅田横穴墓群	菅田町	横穴墓22穴を検出。	2005刊
H15	渋ヶ谷遺跡(措松地区)	大庭町	道路状遺構や溝状遺構、大溝を検出。	2006刊
H15	山津窯跡	大井町	窯壁と7世紀中～後半の須恵器が出土。	2006刊
H15	井廻古墳	上大野町	石棺の一部が残存。	年報Ⅷ
H15	宮ノ前遺跡	持田町	竪穴住居跡2棟等を検出。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土。	年報Ⅷ
H15	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生時代の加工段と古墳1基を検出した。主体部から鏡等が出土した。	2004刊
H15	荒隈城跡(小十太郎地区)	国屋町	大規模な土木工事による山城遺構を検出。	年報Ⅶ
H16	渋ヶ谷遺跡	大庭町	古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。焼失住居も確認。	2006刊
H16	渋ヶ谷1号窯	大庭町	6世紀初頭の須恵器窯を検出。	2006刊
H16	措松遺跡	大庭町	古代道路遺構と考えられる遺構を検出。	2006刊
H16	山津遺跡	大井町	7世紀代の須恵器と窯壁の塊が出土。	2006刊
H16	久傳遺跡	比津町	古代時代を中心とする掘立柱建物跡を7棟検出。	2006刊
H16	向山西遺跡	古志原	丘陵頂部付近から弥生後期初頭の竪穴住居跡2棟を検出。	2006刊
H17	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	弥生後期初頭の玉作工房跡を検出。	2007刊
H17	二反田遺跡	春日町	弥生時代の竪穴住居跡3棟、中近世の大型土坑を検出。	2006刊
H17	勝負奥遺跡	乃白町	弥生後期中葉の竪穴住居跡を検出。	2006刊
H17	矢の原Ⅱ遺跡	上乃木町	道路状遺構を2条検出。	年報Ⅹ
H17	山津遺跡G区	大井町	7世紀末頃を主とする須恵器片と5体の土馬が出土。	年報Ⅹ
H17	松江城下町遺跡	母衣町	松江裁判所跡で、城下町形成時の造成土を確認。	年報Ⅹ
H18	西川津遺跡C区	西川津町	大量の縄文土器・弥生土器・土師器・石器が出土。	2011刊
H18	古屋敷Ⅱ遺跡	西川津町	10～11世紀前後を主とする土師器・須恵器と若干のピットを検出。	2011刊
H18	大勝間山城跡	鹿島町名分	中世の山城跡。弥生中～後期の住居跡と運河佐陀川の揚土置場を検出。	2009刊
H18	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	H17年に調査が許可されなかった大勝間山城の一隅を調査。	2007刊
H18	団原Ⅱ遺跡	大庭町	近世～現代の畑や坑を確認。	

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H18	松江城下町遺跡	殿町287	家老屋敷跡の調査で、4つの遺構面を検出。	2011刊
H18	松江城下町遺跡	南田町77-1外	素掘りの大溝やウラジロ敷詰層を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-32外	ウラジロ（シダ）を敷いた跡を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-1外	”	2012刊
H18	松江城下町遺跡	母衣町193-2外	石組水路を検出。	2014予
H18	松江城下町遺跡	殿町344外	柱穴列、石組、石列や竹組を伴う遺構を検出。	2013刊
H18	松江城下町遺跡	殿町345-1外	石垣と石列を検出。	2013刊
H18	田原谷遺跡	春日町	古墳時代の土壌墓の他、中・近世の建物跡を検出した。	
H18	岩汐窯跡	大井町	須恵器窯跡1基を確認した。	2009刊
H18	石の堂・新宮遺跡	岡本町	両遺跡とも土師器等の遺物を含む自然流路を検出した。	2009刊
H19	松江城下町遺跡	殿町287、279	家老屋敷跡の調査。南北に別々の屋敷跡が存在した。	2011刊
H19	松江城下町遺跡	母衣町68	武家屋敷跡の調査。	2012刊
H19	松江城下町遺跡	米子町49-3	武家屋敷跡の調査で、4つの遺構面を確認。	2014刊
H19	松江城下町遺跡	米子町40-4	町屋と思われるところを調査。礎石を確認し、大量の陶磁器類等が出土。	2014刊
H19	松江城下町遺跡	南田町	武家屋敷跡の調査。江戸時代初期の造成工事に伴うウラジロや杭を検出。	2012刊
H19	佐太前遺跡	鹿島町佐太宮内	弥生時代前期の大溝と中世の大型建物を検出。	2010刊
H19	田中谷Ⅱ遺跡	西法吉町	加工段やピットを検出。9世紀代の須恵器類が出土。	2008刊
H19	小原遺跡	八雲町東岩坂	中世の墓壇と思われる土坑を検出し、竜泉系の青磁や渡来銭が出土。	2008刊
H19	千酌条里制遺跡・中殿遺跡	美保関町千酌	条里関連の暗渠を検出。中殿遺跡から弥生後期～古墳中期の遺物が出土。	2010刊
H19	春日山古墳群・寺ノ脇遺跡	手角町町並	古墳前期～中期の古墳群。寺ノ脇遺跡は縄文時代～近世の遺物が出土。	2009刊
H19	砂口遺跡	大庭町	古墳中期の住居跡と推定される遺構を検出。弥生中期の遺物も数点出土。	
H19	大坪遺跡	大草町・山代町	弥生時代の住居跡を検出。	2008刊
H19	能登堀遺跡	穴道町穴道	古墳後期の溝状遺構を検出。中国磁器や石製硯が出土。	2009刊
H19	大勝間山城跡	鹿島町名分	弥生中・後期の住居跡、山城の曲輪、近世運河の造作遺構を検出。	2009刊
H19	西屋敷遺跡	大庭町	地山を覆う層から少量の須恵器が出土。	
H19	清水遺跡	鹿島町佐太宮内	中世の土地造成、18世紀代の掘立柱建物を検出。	
H19	石台Ⅱ遺跡	東津田	流水の堆積土層を確認。中世の土師質土器や弥生前期の遺物が出土。	2009刊
H19	乃木西廻遺跡	上乃木町	中世の祭祀遺構を検出。土坑から中国製褐四耳壺が出土した。	年報XI
H20	松江城下町遺跡	米子町47	武家屋敷の調査。ゴミ穴を検出した。	2014刊
H20	松江城下町遺跡	南田町52-7	武家屋敷の調査。ウラジロを検出した。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町40外	武家屋敷の調査。3つの遺構面から土坑や水路、建物礎石などを検出。	2013刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町68	H19からの継続調査。石組遺構や井戸、土坑などを検出。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	殿町287、279	H19からの継続調査。江戸初期の建物礎石などを検出。	2011刊
H20	石台Ⅱ遺跡	東津田	H19からの継続調査。縄文土器や弥生土器などが出土。	2009刊
H20	千酌条里制遺跡・中殿遺跡・修理田遺跡	美保関町千酌	H19からの継続調査。修理田遺跡から掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	寺ノ脇遺跡	手角町町並	H19からの継続調査。古墳後期の遺構面を検出。縄文～古墳の土器が出土。	2009刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町・米子町・南田町	工事立会調査。29ヶ所で実施し、主にゴミ穴を検出。	
H20 ～ H21	佐太前遺跡	鹿島町名分	H19からの継続調査。中近世の遺構面から大型掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	戸崎遺跡	上佐陀町	弥生中期末～後期初頭の竪穴住居跡を検出。	2008刊
H20	能登堀遺跡	穴道町穴道	H19からの継続調査。遺構は検出されず、遺物包含層を確認。	2009刊
H21	出雲国分寺跡	竹矢町	伽藍域区画溝、瓦敷遺構2基、粘土採堀坑8基等を検出。	2010刊
H21	石流遺跡	法吉町	7世紀初頭の加工段、掘立柱建物跡等を検出。	2010刊
H21	来美南遺跡	山代町	遺構は検出されなかった。古代瓦が多数出土。	2009刊
H21	史跡出雲玉作跡宮ノ上地区	玉湯町	江戸時代の御茶屋建物に付随する庭園の調査。苑池に水を引く導水路を検出。	2010刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H21	池平山城跡	鹿島町	中世山城の調査で、郭、道路状遺構等を確認。	2009刊
H21	上講武清水遺跡	鹿島町	8世紀前後の掘立柱建物跡1棟や土坑、溝状遺構、ピット群を検出。	2011刊
H21	佐太前遺跡	鹿島町	工事立会。古代末～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代初の遺構面を検出。	2010刊
H21	松江城下町遺跡	母衣町40外	遺構面を3面検出した。江戸時代初頭面で土坑、壁、溝状遺構を確認。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町344外	遺構面を4面検出。17世紀初頭の遺構面では土留工事跡を検出。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を56ヶ所で行った。江戸時代の石組水路、ゴミ穴等を検出。	
H21	松江城下町遺跡	米子町55-5	町屋の調査。礎石や石積遺構を検出。獣骨が入った桶が出土。	2014刊
H21	松江城下町遺跡	殿町191-13外	武家地屋敷の調査で、柱穴、ゴミ穴を検出。	2013刊
H22	西後遺跡	西谷町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2012刊
H22	米塚遺跡	西谷町	礎石経塚を検出。	2012刊
H22	上講武大石遺跡	鹿島町上講武	8世紀中頃～9世紀前半の集落跡を検出。	2012刊
H22	キコロジ遺跡	朝酌町	6世紀後半～9世紀の遺物が大量に出土。	2011刊
H22	石屋遺跡	東津田町	どんぐりの貯蔵穴1基を検出。	2011刊
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門から中門の参道脇を調査。独立ピット（旗立痕か）1基を検出。	
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門前を調査。造成土を検出。	2012刊
H22	野塚遺跡	八束町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H22	松江城下町遺跡	殿町344外	武家屋敷の調査で、7つの遺構面を検出。	2013刊
H22	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	外掘石垣と、それに繋がる基壇状石垣を検出。	2014刊
H22	松江城下町遺跡	南田町80-11	武家屋敷の調査で、ゴミ穴等のほか、江戸時代初期の溝を検出。	2014刊
H22	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を22ヶ所で行った。素掘りの大溝を各所で検出。	
H22	松江城下町遺跡	南田町134-11外	堀尾期～京極期の畠跡を検出。松平期の掘立柱建物跡、礎石建物跡を検出。	2014刊
H23	後廻遺跡	上乃木	弥生後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡、布堀り掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H23	王子坂遺跡	上乃木	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。縄文時代晩期から近代に至る遺物が出土。	2012刊
H23	スモト遺跡	古曾志町	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。弥生中期後半から中近世の遺物が出土。	2011刊
H23	江分遺跡	竹矢町	弥生中期から後期末の遺構や古墳時代後期を中心とする粘土採取坑を検出。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町68	幕末から明治時代頃の礎石建物跡を検出。	2015予
H23	松江城下町遺跡	南田町136-13外	7面の内、1～4面の調査を実施。礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	殿町198-2外	江戸時代後期以降の木樋を検出。素掘りの大溝（南北溝）を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町45外	6面の遺構面を検出。植栽痕、礎石、ピット、大形の土坑、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	前年度の西側（2区）を調査。礎石建物、掘立柱建物、素掘りの大溝、水田跡を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町100外	北、東で屋敷境と思われる素掘りの溝を検出。東側の溝は幅20mを測る。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を36ヶ所で行った。石組水路、素掘りの大溝を検出。	
H24	山代沖田遺跡	山代町	中世前半以降の掘立柱建物跡、総柱建物跡を検出。	2012刊
H24	柳堀遺跡	大庭町	近世の溝、時期不明の柱穴、土坑、杭列や自然河道を検出。縄文～近世の遺物。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町127-2、128、198-1	礎石建物跡、屋敷境石垣、廃棄土坑、掘立柱建物跡、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町68	第3～6面の調査。第3遺構面で大量の肥前磁器、中国磁器が一括出土。	2015予
H24	松江城下町遺跡	殿町198-2外	H23年度調査区の南側で木樋の続きを検出。その東側では竹樋を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町44外	塀、石積土坑、土坑、植栽痕、素掘り大溝を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	南田町130-6外	第3面で堀尾期、あるいは堀尾期から京極期の掘立柱建物跡を検出。	2016予
H24	松江城下町遺跡	南田町136-13外	第5～7面の調査。第5面で畠跡を、第6面で掘立柱建物跡、土坑群を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	南田町137-13外・137-10外	第2、3面で、敷葉工法を用いて造られた川土手を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	米子橋の西側橋台部下で古石垣の跡と思われる集石遺構を検出。	

埋蔵文化財課年報〈18〉

2015年発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ振興財団

印刷

株式会社 谷口印刷

島根県松江市東長江町902-59